

日時

平成二十九年 九月二十四日（日）

E 新庄演劇研究会 第五十回 記念公演

土に叫ぶ人 松田甚次郎

宮澤賢治を生きる

作・演出 近江正人

—— 松田甚次郎先生は
本当に宮澤賢治先生を
愛して生きてきたんだね。

開演

十四時（開場 十三時三〇分）

場所

新庄市民文化会館 大ホール

前売券

一,〇〇〇円（高校生以下無料）

80年程前、理想の農村郷の建設を目指した“熱き新庄人” がいた！賢治を尊敬し、土に叫び続けた男、松田甚次郎の生涯と ロマンを、妻むつ子の思い出を通じて語る！

東北農村が最も暗く貧しく疲れた昭和初期、郷土愛に燃え、土と農業を愛し、故郷を明るく楽しいものにしようと、短くも炎のような情熱と生涯を捧げた人物が最上新庄に存在した。稲船村鳥越(現新庄市鳥越)の地主の長男、松田甚次郎である。

松田は当時全く無名だった宮澤賢治のもとを訪ね「ひとりの小作人になれ、農村劇をやれ」の訓えを受けて深く感動、賢治の理想とする農民としての生き方や村づくりを、忠実に故郷で実践した全国で唯一の農村青年である。この松田が宮澤賢治を恩師として仰ぎ、10年間の自己の実践活動を昭和13年『土に叫ぶ』と題して出版するや、全国のロングセラーとなる。農村更生運動の青年リーダーとして甚次郎の名前が高まり、弟子の桜井コトと協力し松田甚次郎編で『宮澤賢治名作選』を出版すると、賢治の名前は一気に全国に広まっていったのである。だが、戦後その評価は逆転し、まるで銀河の流れ星のように甚次郎の存在と名前は歴史から消えていった。

賢治の二つの言葉を体現し、故郷鳥越に理想郷を築き上げようと青春をかけて苦闘した甚次郎が願っていたものは何だったのか、四次元世界から甚次郎の魂を呼び出し、その生涯に再び光を当てて彼の叫びに耳を傾けてみたい。この芝居は、一昨年の公演に続き、賢治との関係を彫り込んでの再演である。若き甚次郎と苦楽を共にし裏から支え続けた妻むつ子の待つ舞台に、今、甚次郎を乗せた四次元の銀河鉄道が降り立つ！

キャスト



松田 直也



土田 由美



齋藤 正昭



伊藤 理恵



桐生院 潔



今田 翔平
(演劇集団 舞台工房)



伊藤 愛



三嶋 香奈



田中 夏美



荒木 千里



横山 祥二

脚本・演出



森 拓也



柿崎 隼毅



浅野 大輔



八鍬 幸紀



高山 三雄



近江 正人

スタッフ

高山 満男

矢口しのぶ

大友 結

長澤紗樹

押切 健

木戸恵美

渡部一美

渡部直子

アクセス 新庄市民文化会館 山形県新庄市堀端町4-67



- 新庄駅から徒歩20分
- 車で…尾花沢新庄自動車専用道路「鮭川」下車5分
新庄駅から5分

新庄演劇研究会

Facebook Twitterで情報更新中!
公演練習風景や本公演以外の新庄演劇研究会メンバー活動なども随時更新中!

Face book

Twitter



協力

新庄フィルムコミッション
T.F.アケリアスLLC
桧町盛上屋本舗
日新小学校児童
有志の皆さん

チケット問い合わせ

- 0 2 3 3 - 2 2 - 7 0 2 9 (新庄市民文化会館)
- 0 2 3 3 - 2 2 - 4 2 0 0 (新庄市民プラザ)
- 0 2 3 3 - 2 2 - 6 7 0 1 (新庄演劇研究会事務局)
- 0 9 0 - 2 6 0 7 - 3 2 2 2 (新庄の種プロジェクト代表 八鍬)